

矢作川流域圏懇談会「第2回全体会議」開催報告

1. 実施概要

(1) 実施概要

○実施日時：平成25年2月18日(月)
13:00～15:20

○開催場所：
豊田商工会議所2F 多目的ホール

○参加者：99名（傍聴者含む）

(2) 内容

【会議議事】

1. 全体会議座長あいさつ
2. 本日の議論のポイントについて
3. 3ヶ年の活動総括と今後の運営方針
4. 意見交換
 - (1) 3ヶ年の活動総括について
 - (2) 今後の運営方針について



会議風景（1）



会議風景（2）

2. 主な会議内容

第2回全体会議では、これまで行ってきた3ヶ年の活動経緯と活動成果を確認した上で、今後の運営方針について意見交換を行った。会議で話し合われた内容は以下のとおりである。

- 3ヶ年の活動総括については、川部会の総括として、情報共有のための問題点整理だけでなく、横断工作物による降下阻害のような早急に解決しなければならない問題についても考えてほしいという意見が出された。
- 今後の運営方針については、特に他部会との連携について以下のような意見が出された。
 - 土砂管理については、山・川・海部会でどうあるべきかを考えていく必要がある。
 - 山部会からは、各部会で他部会へ検討してもらいたいことを整理した上で相互連携を図っていくことが提案された。
 - 川部会からは、横断工作物の魚道問題を特別に議論してほしいことが提案された。
 - 海部会からは、土砂、ごみ・流木問題の他、栄養塩類の問題についても考えていくことが提案された。
 - 今後、部会間をつなぐ問題についての検討方法は、来年度実施する市民企画会議で議論していくことが提案された。
- 最後に、上記の意見を踏まえて、今後の会議配置、検討方法を考えていくことを確認した。

3. 議事概要 (・ ご意見、提案 ▶ 回答)

(1) 全体会議座長あいさつ 名古屋大学大学院工学研究科教授 辻本 哲郎

(2) 本日の議論のポイント

事務局より、資料1の全体会議出席者について確認した後、資料2を用いて、本日の議論のポイントを説明した。

(3) 3ヶ年の活動総括と今後の運営方針

事務局より、資料3、4を用いて、3ヶ年の活動総括と今後の運営方針を説明した。

(4) 意見交換

○3ヶ年の活動総括について

- ・ 地域にとっての川のあり方ということも一つのポイントなので、豊田市の取り組みについて補足説明をお願いしたい。(辻本)
 - ▶ 豊田市では、明治用水の頭首工から越戸ダムまでの矢作緑地の部分を今後どのように利活用していくかという計画を平成7年度末に策定している。それから数十年経過しているので、流域圏懇談会のみなさんの意見を拝聴しながら、今後の川とのかかわり合いをどのように進めていくかを豊田市としてきちっと持つべきであると考えている。(伊藤)

- ・ 川部会の総括として、本川モデルと家下川モデルにまとめられているものは、情報共有のためには役立つかもしれないが、漁協としては、昔に総括したことであると感じている。そのため、情報共有のために問題点を整理していくことと、幾つかの問題点の最先端で困り果てたことに対して、解決を考えていくという2段構えで考えてほしい。具体的には、矢作川には横断工作物やダムがあるが、遡上については、矢作川ダムと矢作第二ダムを除いて大体うまくいっているが、下りのほうはほとんどうまくいっていないので、このような早く解決しなければいけないところについても考えてほしい。(新見)
- ・ 山部会の総括のうち、流域山村ミーティングの開催は、ほかの三つと比べて、レベルが違うものと思っている。現時点では、ミーティングの準備をしている段階であり、参加者が忙しい他、各森林組合に対しメリット等の説明が不十分であること、流域圏懇談会の中の位置づけが不明確であることから、成熟度が低い認識している。(蔵治)

○各部会の運営方針について

- ・ 川部会では、土砂管理について提案されているが、土砂と山の関係に関するどのような課題があるから山部会と一緒にやりたいのかという話を教えてほしい。(蔵治)
 - ▶ 川部会では、ダムの幾つかは比較的粗い土砂も通過していることがわかったということ、場所によって通過している土砂の中身は違うのではないかとということまでが情報共有されている。その中で、今まで山でこれだけのことを行ってきたから土砂は出なくなった、あるいは出るという話が分からないので、山との関係はどうかを知りたいと思っている。これが分かったことで、すぐにアクションにつながる話でもないが、川が土砂管理に対してどうあるべきかを議論する背景には必要だと認識している。(鷲見)
- ・ 山の立場は、これまで河川に土砂が出るということは悪であると、とにかく山から出る土砂の量は減らさなければならぬという考え方のもと、はげ山の植林や溪流に治山ダムを

つくったりしてきたのが、これまでの歴史だと認識している。矢作川の場合、深層崩壊が起きるような地域ではないので、山の土砂生産は、表面浸食あるいは表層崩壊の2種類だと認識している。このような対策によって、恐らく平常時の土砂生産量は減少したと思うが、東海豪雨のような災害に対しては、限界に達して立木ごと崩れるということになる。その中で、「粗い土砂」とは、表面浸食レベルの土砂なのか、表層崩壊レベルの土砂の話なのか、よく分からない。ただし、特定の支川とか流域において、こういう種類のタイプの粒径の土砂であれば、ある程度出たほうがむしろ環境にいいという議論はあるのかと思う。(蔵治)

- ・ 流域圏全体から見れば、山は土砂を出さないようにという基本的な姿勢があり、海としては土砂を出してほしいという姿勢があるので、それが全く矛盾しているのか、ある程度工夫をすれば持続可能な土砂管理ができるのかというすり合わせが重要だと思う。また、山は災害防止とかいろいろな観点から土砂管理を行うが、海は、どういう土砂をどの程度供給すれば川・海にとって健全な土砂供給ができるのかということが一番重要だと思う。今すぐ何かできることではないが、相互理解のもとに何か動きをつくっていければいいと思う。(青木)
- ・ 土砂管理に関しては、山は、土砂をとめていることだけでなく、どれだけの土砂の出るような山なのか、川は、それぞれのところでどれくらい土砂が流れているべきなのか、あるいは流れてこなくてもいいのか、海は、それぞれの立場での問題点が必ずしも十分認識されていない。それが認識されると、連携の話ができると思う。また、土砂管理について一緒に検討していきたいの「一緒」がどういう意味か明確にしていく必要があり、各部会として、運営方針の中に土砂の入れ込み方を少し考えていただければいいと思う。(辻本)
- ・ 山と川につながるものとしては、土砂とともに栄養塩類の移動だと思う。例えば、ダムによってどれくらい栄養塩類が違う形になるのか、あるいは、どれくらい栄養塩類が流れてくるものかということ調べることも必要ではないかと思う。(高橋)
- ・ 川部会では、流域全体で通過しているものとして、水量の問題、物質としての栄養塩類、土砂、ごみ・流木があると整理している。その中で、物質は海から見ればかなり強い関心事項になると思う。ただ、川は、大ざっぱに見れば通過しているだけだと見ると流域あるいは陸地との関係どうするかという話になる。その中で、栄養塩類、土砂、ごみ・流木どれを重点的に取り扱うかという問題に集約されるのかと思う。(鷺見)
 - 海からすると、ごみや水質、物質は、川を上から下へ1本の水の流れの中だけで入ってきているのではなく、農地や都市などの陸の利用の仕方から入ってきているので、陸地のことも誰かが考えていかなければならないと思う。そのため、川部会とか市民会議などで議論された中から、どんな形がいいのかを検討するのがいいと思う。(辻本)
- ・ 先程の意見では川は通過だというように認識したが、川は通過ではなく、水をろ過する場所だと考えている。(石川)
 - それについては、了解している。(鷺見)
- ・ いろいろな人が取組みを行っていく中でお金の問題もあり、ボランティアではできない問題もあると思う。また、今、三河湾は非常に真水が少ない、栄養塩が少ないということがある。これを掘り下げていくと、今度、岡崎、豊田の浄化槽が碧南へ来ることで、水が1

カ所に集まり放流されるので、三河湾が偏ってしまうこともある。三河湾では分散した水が欲しいと思っているのでお願いしたい（石川）。

- ・ 土砂の勉強会を始められたところだが、洪水時や渇水時はどう流れて、物質はどこを經由して、どの分は流域圏より外へ出るのかといった話をじっくりベースで知識共有して、部会間の調整をしてもらえれば良いと思う。また、運営方針の中でどのように部会、市民会議、全体会議をアレンジするのかということも議論したら良いと思う。（辻本）
- ・ 川部会が一番大きな問題は、川の連続性や魚の移動の問題だと思うが、矢作川水系で37くらいあるダムのうち、上流に上っていくほうはほとんど機能しているが、下っていくほうがほとんどだめだということ。それは、資源保護上はほとんど意味がないことなので、横断工作物の魚道の問題については、特別に議論してほしい。（新見）
 - この問題は、川部会に関係されているそれぞれの専門家が、情報を整理されて部会に上げ、提案していただくことになるかと思う。（辻本）
- ・ 山部会では、木づかいガイドラインを作成しようとしているが、木を使ってもらうことを考えたときに、川部会や海部会の方はどんなことで木を使ってもらえるのかという話になる。そのため、事務局への提案になるかもしれないが、各部会から他部会で検討してもらいたいことを一回整理してみて、できれば山と川だけの話し合いや山と海だけの話し合いとかができると、また発展的になるのではないかと思う。（今村）
 - それぞれの部会のテーマから他の部会に要求する項目を書き出してもらおうといいという指摘なので、次回の部会で、相手部会、別部会にお願いしたいことをまとめてもらって、まずできるのかできないのかの回答ぐらいから相互連携を行っていけば良いと思う。（辻本）
- ・ 何がやってもらえるかという相互のやりとりは、座長がそれぞれから出すというより、むしろ、コミュニケーションがなされる場がほしい。今の会議体でいうと市民企画会議あるいは勉強会の中で時間を設けることが考えられる。そのため、4、5月で開催される市民企画会議では、そのあたりも含めて議論の対象にさせていただきたいと思う。（鷺見）
- ・ 前回の市民会議は、3つぐらいの小グループに分けて、それぞれのグループに山・川・海のメンバーが集まるようにして、1時間程度、意見を出し合ったが、これがざっくりばらんにものが言えてよかった。規模が小さくても、参加しやすく発言しやすい市民企画会議ないし市民会議形式の話し合いを設けていくことで、ある程度部会間のコミュニケーションがとれると思う。（洲崎）
 - 小さな輪での議論が集約されて、全体会議まで伝わる伝達システムがうまくでき上がってくれば良いと思うので、その辺りも部会あるいは事務局で議論してほしい。（辻本）
- ・ 最後に会議配置、役員任期の話で意見はあるか。また、傍聴からの意見はあるか。（辻本）

（特になし）
- ・ 事務局としても来年度に向けての参考にしながら、議論をしっかり行っていきたい。

以上